

下記文書は、戦後山西省に残留させられて命からがら生きのびたうえ、大原戦犯収容所での戦犯として収容体験をされた埼玉の稲葉さんからの本証言集会へのメッセージです。**稲葉さんも当日参加される予定です。** 次回の神奈川証言集会にはご本人、稲葉さんからじっくりとお話しを聞かせていただきたい、と考えています。

山下正男さんの講演について

稲葉 績

山下さんの歩んでこられた道は、私と同じ日本帝国の軍国主義の残酷な中国侵略戦争の道でありました。お互いの行動は別々でありましたが共通することは以下の五点です。その第一は、戦前、戦後を通じて二重の戦争犯罪者であること、心から中国人民に謝罪したことでもあります。

第二に戦後残留は、武装解除もなく日本軍の軍紀の中で行なわれた軍命であり第一軍澄田軍司令官の作戦命令によるものです。じっさいに私は残留部隊の総司令である今村高級参謀より直接命令されました。復員を目前に他国の内戦に命を棄てる者は一人もいません。残留は日本帝国主義の「祖国復興」の命令によるものであります。

第三は、永年収容所、西陵収容所、大原戦犯収容所と収容されそれぞれ異なった環境ではありましたが、中国政府の寛大政策により「鬼から人間」に生まれ変わることができました。そして全員が帰国できたことです。

第四に、国、政府は澄田軍司令の偽証言を盾にポツダム宣言違反の大罪を我々に背負わせ責任から遁れんとしております。「政治的に問題が大きいので認めるわけにはいかない」「経済的に恩給を出す金はない」つまり「泣き寝入りしてくれ」と言っているのです。全員が死ねば「死人にくちなし」という態度であります。国会議員も戦争責任をとろうとはしません。

第五には、戦争体験者として、二度と過去の過ちは踏まないで、平和を守ることが責任であるし与えられた任務です。その為の証言活動であり本の出版であります。

現在の国内外の情勢は最大の危機に直面しております。国内では戦争の反省が風化され新しい内閣は平和憲法を改悪し、戦争の道に進まんとしています。尖閣問題でも武力衝突の危機にさらされています。国民は戦争に反対しています。国民を守る為の議員なのか、党の利益の為、己の利益の為本来の任務を見失った議員なのかを見極めなくてはなりません。

国会は平和を守る為の討論場であります。戦争を知らない人達だからといって戦争の反省からのがれることはできません。戦後残留問題にしても、慰安婦問題にしても、戦後処理問題は放置されていて戦争は未だ終わっていません。これらの責任を取ろうともしない政府が逆に戦争の道に進んでおり、現在の国内外の危機を解決することはできません。解決できるのは平和と友好の勢力の結集であります。残り少ない余生ですが「祖国復興」という言葉でだまされて、未だ異国の果てで帰ることができない友の亡骸に合掌しつつ、平和の為に努力します。